United Nations 60 A Time for Renewal

UNIC Tokyo Dateline UN

November 2005 Vol.61

国際連合広報センター

Happy 60th Anniversary!

国際連合は今年１０ 月２４ 日の国連デーで創設 60 周年を迎えました。以下はコフィー・アナン事務総長のメッセージです。

創設 60 周年を祝い、ニューヨークの国連本部ビルに「UN60」の文字が灯された©UN Photo #99543 by E. Debebe

私たちはきょう、国連創設 60 周年を祝うにあたり、今日の世界が創設者の時代とは大きく異なることを認識しなければなりません。

国連はこの新たな時代を反映し、その挑戦に立ち向かわなければならないのです。そこには何よりも、数億人の人々が飢餓や病気、環境破壊を前に、なすすべなく立ちつくしているという現実があります。世界にはこれを救う手だてがあるにもかかわらず、です。

先月、世界の指導者たちはニューヨークに集い、こうした課題への共通の対応策を模索しました。

豊かな国の指導者も、貧しい国の指導者も、詳しく定められた政策の実施を約束しました。これを完全に実施すれば、今後 10 年間で飢餓と貧困を半減させることができるでしょう。

これらの指導者たちは、人権を推進し、戦争で荒廃した国々に恒久的平和を構築するため、新たな国連機関の創設を決定しました。

また、あらゆる形態のテロと闘い、必要とあれば、人々をジェノサイドやその他の凶悪犯罪から救うための集団行動をとることを約束しました。

さらに、国連事務局の重要な改革も決定しました。

しかし、気候変動と安全保障理事会改革については、弱々しい声明しか出せませんでした。しかも、核拡散と軍縮については、まったく合意できなかったのです。

私たちには膨大な量の作業が残されています。きょう、国連という必要不可欠な存在の創設 60 周年を記念するにあたり、私は自分の責任を果たしてゆくことを皆様にお約束したいと思います。そして、皆様もグローバル市民として、応分の責任を果たしていただけるものと信じています。

ウェブサイト（英文）
www.un.org/av/photo/un60/index.html

国連 60 年の歴史を
数々の貴重な写真でふり返ります。

INSIDE

国連創設 60 周年を迎えて 2–3
60 周年記念 in NY / Japan 3
国際平和デー・教育プログラム ３年間の取り組みから 4
2006 年は砂漠と砂漠化の国際年 5
UN Gallery：ユニセフ展 6
トピックス：ライブラリー、国連切手 7
UN Gallery：21 世紀　希望の人権展 8

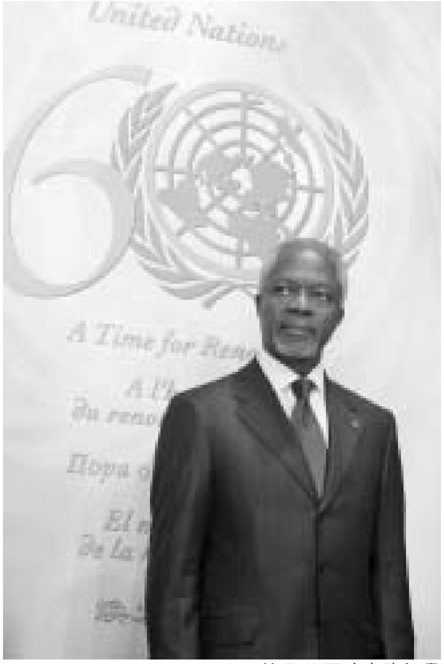
http://www.unic.or.jp/

広報資料－－公式文書ではありません　vol. 61　2005 年 11 月

国連創設60周年を迎えて

国連広報センター所長・野村　彰男

国連は2005年10月24日、創設60周年を迎えました。創設以来、加盟国の数はほぼ4倍の191カ国に達しました。国連が直面する世界も、1945年の姿から大きく様変わりしています。コフィー・アナン国連事務総長が、今日の世界の現実をよりよく反映するよう、国連の改革を提案した裏には、このような事情があります。先月、ニューヨークで開催された世界サミットには、世界の指導者160人以上が出席しましたが、事務総長の期待がすべて実現するには至りませんでした。それでも、多種多様な問題について、首脳の間で今後の前進に向けた共通の基盤が出来上がったことは、重要な成果といえるでしょう。



コフィー・アナン第7代国連事務総長
ⒸUN Photo #99602 by E.Debebe

グローバリゼーションによって、国際社会の相互依存はますます進んでいます。しかし、国連を構成する加盟国はわれわれの想像が及ばないほど多様で、豊かな国々と貧しい国々、強大な国々と無力な国々との格差は、さらに広がりつつあります。

世界には、苦境に陥っている弱者が数多くいます。10億人以上の人々にとって、極端な貧困は日常的現実となっているのです。1日のエネルギーを賄うのに必要な栄養を取れない人々が8億人を超えるほか、開発途上国では5歳未満の子どものうち、4分の1以上が栄養不良の状態にあります。

毎年、5歳の誕生日を待たずに世を去る子どもたちも1,100万人近くいます。そのほとんどは開発途上国に暮らし、日本のような国に住んでいれば予防できたはずの病気や合併症で、幼い命を失っているのです。小学校就学年齢であるにもかかわらず、学校に通っていない子どもたちは、1億1,500万人を超えます。

先進国の国民であっても、環境破壊、自然災害、感染症、テロなどの被害に遭う可能性は高くなっています。つまり、私たちの住む世界は、それだけ不完全なものなのです。そして、私たちの世界が不完全であるからこそ、国連が必要とされるのです。小泉純一郎首相は、世界サミットで、私たちには「極端な貧困と闘っている人々に手を差しのべる、優しさのある国連」、「平和の構築に向けた道筋をつける、強い国連」、そして「今日の世界における私たちの願いや規範を反映した、効果的な国連」が必要だと演説しましたが、まさに的を射た発言だといえましょう。

イラク戦争が始まって以来、国連と米国の関係は緊張を続けています。世界唯一の超大国となった米国の建設的な関与なしには、国連が効果的に機能できるとも、抜本的な改革を実行できるとも考えられません。その意味で、世界サミットでのブッシュ大統領の演説は、この関係の転機を示唆するものではないかとの見方もあります。大統領は、これまでの演説での対決色を薄め、その冒頭で、ハリケーン・カトリーナによる被災者に援助の手を差し伸べた多くの国々と国際機関に、感謝の意を示しましたし、ブッシュ大統領はまた、世界の指導者たちに対し、テロだけでなく、その温床となりうる貧困や抑圧、無力感とも闘うという米国の意思を示したからです。

事務総長は国連改革に関し、大胆な青写真を示しましたが、サミット最終文書は、事務総長や多くの加盟国が期待したほど遠大なものとはなりませんでした。日本は、60年間に生じた根本的変化を反映するよう、安全保障理事会（安保理）の拡大を強く望みました。しかし、安保理改革については、あいまいで全般的な合意が見られただけで、具体的な拡大プランについての審議は先送りされたのです。

国連60周年記念式典から

ニューヨークの国連本部では10月24日、記念式典が行われました。

（左上から時計回りに）
- ●殉職した国連職員に花輪を捧げるアナン事務総長
- ●創設60周年を祝うバースデーケーキのろうそくを吹き消すアナン事務総長とエリアソン国連総会議長
- ●ピースベルを鳴らすアナン事務総長
- ●総会議場で開かれたコンサート

©UN Photo #99601 by E. Debebe
©UN Photo #99608 by E. Debebe
©UN Photo #100061by Paulo Filgueiras
©UN Photo #99605 by E. Debebe

最終文書では、核不拡散と軍縮への言及がすべて削除されましたが、事務総長はこれを許し難いことだとコメントしています。

しかし、こうしたマイナス点はあったとしても、サミットは大きな成果を上げたといえます。

指導者たちは人権の分野で、現在の人権委員会に代わる人権理事会の設置により、国連の人権機構強化に合意しました。すべての政府は初めて、「誰がどこで、どのような目的で実行しようとも、あらゆる形態の」テロを、はっきりと無条件で非難することで合意しました。また、紛争後の和平を支援する平和構築委員会の創設も決定されました。

開発に関し、すべての政府は、極端な貧困の半減から初等教育の完全普及に至るまで、2015年を期限とするミレニアム開発目標（MDGs）の達成を、強くはっきりと誓いました。この約束が完全に守られれば、世界的な国際協力に大きな突破口が開けることでしょう。

さらに、全政府がジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化、人道に対する罪から国民を守る集団的責任をはっきりと無条件で受け入れたことも、サミットの極めて重要な成果といえます。この理念は、旧ユーゴスラビアやルワンダで国際社会が味わった苦い経験から生まれたものです。

言うまでもなく、これは改革の始まりであって、その終わりではありません。第60回総会のヤン・エリアソン議長の言葉にもあるとおり、「国連は加盟国が目指す場所までしか行けない」ことを、私たちは肝に銘じておかなければなりません。

来年は日本の国連加盟50周年に当たります。日本の国連中心主義を再確認する上で、これはまたとない機会ではないでしょうか。国連有数の貢献をしてきた加盟国として、また、軍縮と人間の安全保障の主唱国として、日本は合意事項の実施に全力を傾け、そうした努力を通して拡大される安保理の常任理事国となるにふさわしい国であることを全世界に見せるべきなのです。

60周年記念 in Japan

◎ＵＮハウスで公開フォーラム

国連創設60周年、国連大学創立30周年を記念して、『21世紀に国連で働く－平和構築への貢献』をテーマに公開フォーラムが開かれました。国連関連機関の現場で働く職員による活動報告の後、これら職員が会場の参加者からの質問に答えました。

◎冊子『国連が世界を変える60の方法』

1945年の創設以来、国連が携わってきたさまざまな活動を60項目で案内する小冊子の日本語版ができ上がりました。お問い合わせは当センターまで。

◎野村所長のブログが始まりました！

創設60周年を迎える国連の活動をより多くの人に理解していただこうと、株式会社ライブドアの協力を得てブログを開設しました。その名も“ＮＹ発渋谷経由『国連広報マンの掘り出し情報局』”。日頃、国連にあまり関心やなじみのない方向けに、当センターの野村所長が書き下ろす「国連の知って得するミニ情報」を中心に構成されています。年末までの期間限定、ぜひご一読を！

国連広報マンの掘り出し情報局

http://blog.livedoor.jp/unic_tokyo/

国際平和デー・教育プログラム

～３年間の取り組みから～

国連広報センターは財団法人五井平和財団との共催により、2003年より毎年「国際平和デー・教育プログラム」を実施してきました。このプログラムは国連の定める国際平和デー（9月21日）を記念して、国連の活動や平和について学んでいただくことを目的に、学校・教育機関を対象に広く参加を呼びかけるものです。3年間の延べ参加校数は全国の小中高２３５校にのぼり、参加者は98,000人あまりとなりました。

さまざまなアイデアで「平和」を表現する児童・生徒たち【写真提供・上】船橋市立八木が谷小学校、【同右】大阪市立桜宮中学校

国際平和デーは、すべての国、すべての人々が共通の理想である平和を願う日です。国連はこの日を「世界の停戦と非暴力の日」として、すべての国と人々にこの日一日、敵対行為を停止するよう働きかけています。ニューヨークの国連本部でのセレモニーをはじめ、世界各地において毎年多くの地域や市民団体、学校などが「国際平和デー」を祝い、さまざまな取り組みを行っています。

日本では独自の取り組みにより、全国の都道府県教育委員会などを通じて、この日に学校教育の場で平和や国連の活動について考える機会にしようと呼びかけました。そのプログラムの目的は以下の3点です。

１）国連の活動を知ることから、今日の国際社会に対する関心を深める機会とする。
２）国連が取り組む社会・環境・経済などの諸問題について学ぶことにより、よりよい世界の実現のため何が必要かを考える。
３）各人の生き方が国際平和に関わっていると同時に、未来社会への創造へつながっていることを体験的に理解する。

こうした目的を踏まえて、参加校は実際の取り組み方法を検討します。というのも、プログラムは規定の取り組みを設けておらず、参加校に創造的な活動を求めているからです。

実施例としては、「国際平和デーの当日に校内放送でアナウンスをする」、「児童会・生徒会で講話を聞く」、「平和をテーマに作文を書く・ポスターを描く」などがありました。従来の平和教育や修学旅行に絡めて実施した学校もありました。また、ユニークな例としては、当センターの小冊子『みんなの国連』をもとにした「平和・国連を題材にしたカルタ作り」、「平和デーの一日は友達とけんかをしない」ように努力したり、「当日のニュースや新聞に注目して家族で平和に関する話題を持つように呼びかける」学校もありました。

3年間の実施をふり返ると、まずは参加にあたって活動の核となる先生の熱意に負うところが大きいと思われます。「平和」「国連」というやや硬めのテーマを、いかに関心をもって楽しく学ぶかに創意工夫が感じられました。また、回を重ねるごとに、より児童・生徒の自主性を重視した取り組みとなっていることも興味深い点です。小中高校でレベルの差こそあれ、先生のサポートを得て児童・生徒が「いかに取り組むか」を考え、それを実践していく様子が頼もしく思えました。学校賞・特別賞を受賞した学校は、こうした点が評価されました。

国際平和デー・教育プログラムは学校教育の現場を対象としましたが、参加した児童・生徒を通じて家庭や地域へと広まったケースもありました。プログラムは3年間の実施をもって終了しますが、各学校に芽生えた「平和・国連」への関心が、今後大きく育っていくことを願っています。

（国連広報センター・岸田晴子）

ウェブサイトは
http://www.unic.or.jp/info/05-11-01.htm

2006年は
砂漠と砂漠化の国際年

INTERNATIONAL YEAR OF DESERTS & DESERTIFICATION 2006

砂漠と砂漠化の国際年
ロゴマーク

国際社会が一年間を通じて１つの共通した問題に取り組む「国際年」。国連は来たる2006年を「砂漠と砂漠化の国際年」に定めています。深刻な干ばつや砂漠化に苦しむ国、特に砂漠化によって被害を受けているアフリカの人々に対して、国際社会の認識を高めることが目的です。アナン事務総長は同国際年の準備状況を国連総会に報告しました。各国首脳サミットやサッカー試合など、多彩なイベントが計画されています。

「2006砂漠と砂漠化に関する国際年（IYDD）」の準備状況に関するアナン国連事務総長の中間報告書が11月2日、国連総会に提出されました。この国際年は、全世界で甚大な環境、社会、経済コストをもたらしている砂漠化を食い止めることを目指して、第58回総会において宣言されたものです。[総会決議はhttp://www.unic.or.jp/new/pr04-024.htm]

IYDDは、国際的な環境課題における乾燥地問題への注目と重要性を高めるとともに、この問題が持つ真の意味でグローバルな性質を浮き彫りにする大事な機会です。あらゆる国々と市民社会組織には、この国際年を記念する特別の取り組みが求められており、全世界でその準備が本格的に進んでいるところです。

中間報告書は、砂漠化をテーマに、土地劣化と貧困との重要な結びつきを強調することをねらいとして地方、国内、国際レベルで計画中のさまざまなイベントを紹介しています。次のような主なテーマで、大がかりな取り組みが予定されています。

ウェブサイトは
www.iydd2006.org

＊若者と砂漠化　　バマコ（マリ）
＊女性と砂漠化　　北京（中国）
＊砂漠化と移住　　アルメリア（スペイン）
＊市民社会と砂漠化　モンペリエ（フランス）
＊科学と砂漠化　チュニス（チュニジア）およびナイロビ（ケニア）
＊貧困、飢餓と砂漠化　ジュネーブ（スイス）

国際年の最後を飾るイベントとして、アルジェリア政府は「砂漠化、移住、安全保障」をテーマに、各国首脳によるサミットを主催する予定です。

IYDDはまた、独特の生態系、数千年の歴史を誇る自然の生息地、そして世界でも有数の活気あふれる文明の発祥地として、砂漠をたたえる機会ともなります。報告書は、計画中の多くの文化的行事について詳しく紹介しており、世界の砂漠の豊かな社会的・文化的側面が描き出されることが期待されます。

報告書の提出と並行して午後に行われた関連行事には、国際年の名誉スポークスパーソンの中から２名が出席しました。アルジェリアのシェリフ・ラフマニ環境大臣と、ブルガリアが世界に誇るサッカー選手で、ゴールデンブーツ賞も受賞したフリスト・ストイチコフ氏です。名誉スポークスパーソンは一年を通じて国際年を支え、協力していきます。

ストイチコフ氏は、「このメッセージを将来の世代に広めていきたい。特に、国家を超えて共鳴し、人々を一つにまとめることができる、世界でもっとも力と友愛に満ちたサッカーというスポーツを通じてメッセージを伝えたい」と述べました。この関連で、アフリカをはじめ砂漠化の影響を受けている国々の選手と、ヨーロッパの選手との間で、サッカーの親善試合を行う計画もあります。

一方、ラフマニ大臣は、IYDDを「砂漠に暮らし、砂漠化の被害を受ける地域の生物多様性や知識、伝統を守る」機会とする必要性を強調しました。

UNギャラリー

ユニセフ展：ブータンの子どもと女性

UNギャラリーでは、2005年11月1日（火）から11月30日（水）まで、「ブータンの子どもと女性　～国民総生産より国民総幸福の国から」展を開催中です。

今回の展示では、子どもや女性を中心にブータン王国を紹介する約60点の写真のほか、児童の権利に関する条約をテーマにした曼荼羅などを展示いたします。「国民総生産」より「国民総幸福」を目指すヒマラヤのユニークな仏教王国ブータン。この国に暮らす子どもと女性の表情を通して、国連児童基金（ユニセフ）ブータン事務所の活動を紹介します。

《ブータン王国とユニセフ》

ブータン王国はヒマラヤ山脈東端に位置する九州ほどの大きさの小さな国で、世界で唯一のチベット仏教王国です。「国民総生産より国民総幸福を考えた開発が大切」とする現国王のもと、環境・文化・伝統を守る開発を目指しているユニークな途上国です。ブータンではタバコ製品の販売禁止や民族衣装の着用が義務付けられています。

国民総幸福の国とあって子どもたちは素晴らしい表情を見せてくれる一方、国民一人当たりの所得は低い水準にあり、地形も険しいため、教育・保健や栄養・水、衛生の分野でのユニセフの支援が必要とされています。

期　間：2005年11月1日（火）～11月30日（水）
午前10時～午後5時30分
休館日：土日および11月4日（金・国連の祝日）
＊11月3日と23日（日本の祝日）は開館
場　所：UNギャラリー（UNハウス1、2階）
入場料：無料
主　催：国連児童基金（ユニセフ）
後　援：ブータン王国名誉領事館、特定非営利活動法人ブータン開発協力会議　財団法人　日本ユニセフ協会

【写真１】「あなたに花を贈ります」ⒸAtsuko TAJIRI
ブータンで「幸せ」とは「私の心が好き」を意味する。国民総幸福（Gross National Happiness）を大切にするこの国には、人に花を贈る幸せがあふれている

【写真２】「親子の絆」ⒸYusuke SEHATA
日常的に一緒にいる時間が多いのだろう、子どもが親に絶大な信頼を置いているのが表情から伝わってくる。心の底から安心している瞬間

【写真３】「道路労働者の子」ⒸEi KUBOTA
両親が道路工事で働いている間、道路脇のかごの中で一人ぼっちの子ども

トピックス @UN ライブラリー

◎冬休み国連ライブラリー・ツアー

UN ドキュメンテーション・サービスは12 月に高校生対象の冬休みライブラリー・ツアーを行います。内容は国連ライブラリーとその業務の紹介、国連と国連文書の基礎知識、国連の各種レファレンス・ツールの案内、国連統計 / データ資料の説明などです。
参加希望者はお早めにお申し込みください。

日　時：　2005 年 12 月 21 日（水）、22 日（木）
　　　　　13：00–16：00　＊両日の内容は共通です。
場　所：　UN ハウス２階　国連大学ライブラリー
対　象：　高校生
参加費：　無料
申し込み先：UN ドキュメンテーション・サービス
　　　　（Tel: 03-5467-1305、Fax: 03-3499-8272）

◎第７回ライブラリー講座を実施

今年最後となる国連ライブラリー講座を10 月 20 日に実施しました。今回は「人口問題」をテーマに、講師に国連人口基金（UNFPA）東京事務所の池上清子所長を迎えて開催しました。

講座では、人口問題に関する基礎知識を学ぶとともに、池上所長から参加者全員にUNFPA の主要文書のひとつである「カイロ行動計画」の全文掲載冊子が配布され、一つひとつの条項にあたりながら、詳しい説明をうかがいました。

来年もさまざまなテーマを設定し、ライブラリー講座を開催する予定ですので、どうぞお楽しみに。

◎新着資料：『世界公的セクター報告』

国連経済社会局が 2005 年版『世界公的セクター報告』を発表しました。「人的資源管理」に焦点を当て、公的セクターの能力を高めるため人間の潜在性をどう生かすかを追求しています。オカンポ事務次長は記者会見で、「グッド・ガバナンスには良質の公的サービスが必要である」と述べました。

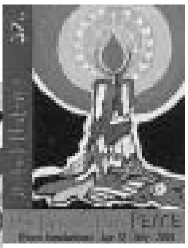
トピックス @UN

◎最新の国連切手から

国連郵政部は「世界遺産ーエジプト」をテーマに６枚の記念切手と３ 冊の切手帳を発行しました。国連切手のモチーフに世界遺産が採用されるのは今回で11 回目となります。「メンフィスとその墓地遺跡－ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯」、「古代都市テーベとその墓地遺跡」ほか６ つの文化遺産が切手の図柄に選ばれました。

一方、国際平和デー（9 月 21 日）には「My Dream for Peace One Day」をテーマにした国連切手も発行されました。同国際デーの意義を多くの人に知ってもらうため、2004 年から３年間にわたり、ポスター・コンクールの入賞作品を切手の図柄に採用する方式で作られています。ライオンズ・クラブ・インターナショナルがスポンサーとなる同コンテストは、世界中の11–13 歳の子どもたちを対象に、世界平和の意味を考え、アートとして表現するよう呼びかけるものです。入賞作品の６ 点が国連切手の図柄となりました。国連切手の詳細はhttp://www.unic.or.jp/stamps/stamptop.htm をご覧下さい。

Lee Min Gi
（12 歳・韓国）



Vittoria Sansebastiano
（12 歳・イタリア）

【お詫びと訂正】

前号（Dateline UN 10 月号）の3ページ中、「世界サミットの成果（要旨）」に一部誤りが見つかりました。お詫びして訂正させていただきます（以下が正しい記述です）。

人道援助
Humanitarian Assistance

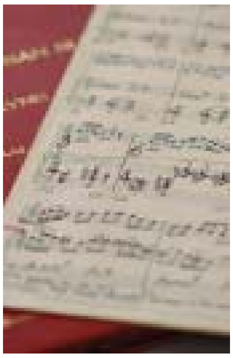
＊中央緊急回転基金（Central Emergency Revolving Fund）を改善し、災害発生時に緊急援助が直ちに信頼できる形で届けられるようにする。

＊「国内避難民に関する指針（Guiding Principles on Internal Displacement）」を国内避難民保護のための重要な国際枠組みとして認識する。

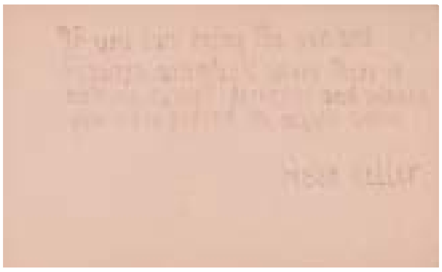
UNギャラリー

「21 世紀　希望の人権」展

全盲のイラストレーター、エム・ナマエさんの作品



1



2

3

4

1）「アウン・サン・スーチーに贈る」ウェイン・ショーターの直筆楽譜
2）ヘレン・ケラーの直筆
3）エイズ孤児が描いた絵
4）リベリアの少女が新聞紙に描いた絵

東京・渋谷のUNギャラリーでは、2005年12月7日（水）から12月25日（日）まで、「21世紀　希望の人権展　かけがえのないあなたがいる～　For Your Happiness and Global Peace」を開催します。

今回の展示では、障害や偏見を乗り越えてきたアーティストの作品や歴史上の貴重な資料を含む230点の展示物を中心に、世界と日本のあらゆる「人権問題」をパネル解説を交えてコンパクトに、かつ多角的にご紹介します。病気や身体障害、民族問題、戦争、人身売買などさまざまな理由で人権を侵害されながらも、それを乗り越えようとする人々の手による作品は、いずれも深く胸に迫るものばかりです。また、世界331言語とギネスブック公認の最多翻訳文書である「世界人権宣言」を、50インチのタッチパネルでご覧になれます。

この展示はさまざまな人に「開かれて」います。
＊ 全パネルふりがな付き（一部、対象外もあります）。
＊ 視覚障害者のための携帯電話ホームページを開設。
＊ 英語、ハングル、中国語、スペイン語ほか、多言語で展示パネルの概要を配布予定。
＊ 約400冊の絵本が手に取れる絵本コーナーを設置。

◆　UNギャラリー写真展　◆

期　間：2005年12月7日（水）～12月25日（日）
午前10時～午後5時
＊期間中、休館日はありません
場　所：UNギャラリー（UNハウス1、2階）
入場料：無料
主　催：創価学会、国連広報センター
後　援：国連児童基金（ユニセフ）駐日事務所、社団法人日本ユネスコ協会連盟

発行：国際連合広報センター
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70　UN ハウス8階
TEL: 03-5467-4451　FAX: 03-5467-4455
URL:　http://www.unic.or.jp /　E-mail: unic@untokyo.jp